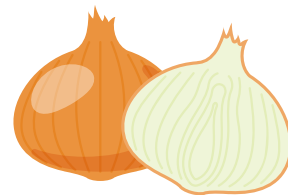


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

一年通して食卓に 欠かせないタマネギ



タマネギは、生食では辛味と独特の香りがありますが、加熱すると甘味が増します。辛みと臭いの成分「硫化アリル」には殺菌作用のほか、血液をサラサラにする効果があるとされています。煮物や炒め物、揚げ物、サラダなど幅広い料理に利用でき、一年を通して食卓に欠かせない野菜です。

図1 作型目安

	品 種	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
タマネギ	早 生	●		▲						■ ■	
	中晩生		●	▲						■ ■ ■	

● 種まき(育苗) ▲ 定植 ■ 収穫

栽培の
ポイント

- タマネギは寒さには強いものの暑さに弱いので、本格的な夏になる前に収穫する必要があります。また、球は日が長くなり、気温が上昇すると肥大を始め、生育が進みます。そのため、暖地では一般的に秋まき・初夏どり栽培となります。
- 移植時の苗が大きすぎる場合、移植後の低温でねぎ坊主が発生しやすくなり、収量が低下します。移植には適正な大きさの苗を使用しましょう。
- 酸性土壌を嫌うため、植え付け前の2～3週間前までに苦土石灰を散布して土壌酸度を調整しましょう。タマネギの適正土壌pHは、6～7でやや中性寄りになります。
- 最も注意が必要な病害が、べと病です。4月～5月頃に発生するため、予防として葉が伸び始める春先からダコニール1000などのべと病に効果のある殺菌剤で薬剤防除すると効果的です。

種 ま き
(育苗)

畝幅60～70㎝、高さ15㎝程度の苗床を準備します。苗床に8～10㎝間隔で浅い溝をつけ、種を約1㎝間隔にすじまきします。薄く覆土し、乾燥防止のため、もみ殻などの有機物を被せて水やりをしましょう。苗が込み合っているところは、草丈が6～7㎝の頃に間引きし、太さ6～7㎜、長さ20㎝程度の苗に仕上げます。

畑の準備

植え付けの2～3週間前までに完熟堆肥3㎏/㎡、苦土石灰150g/㎡を施してよく耕します。植え付け1週間前には化成肥料(畑作名人などN-P-K=13-13-13)100g/㎡、過リン酸石灰30g/㎡を施します。畝幅75㎝、畝高10～20㎝、株間12㎝程度の4条植えにします。黒マルチを使用すると雑草防止と生育促進に効果的です。

植 え 付 け

マルチの穴に1本ずつ植え付けます。指で深さ2～3㎝の穴を開け、苗をまっすぐ立てて植えます。茎の白い部分に土がかぶる程度の深さが適当で、深植えに注意をしましょう。移植時の苗の大きさは、草丈25～30㎝程度、茎径が6～7㎜で鉛筆の太さ程度がよいと言われています。

追 肥

2月下旬から3月上旬を目安に追肥を行います。化成肥料(畑作名人などN-P-K=13-13-13)30～50g/㎡を黒マルチの上から施肥しましょう。※降雨などで肥料が溶け、植え穴から土壌に流入します。

収 穫

5月中旬から下旬頃になり、球が十分に肥大すると根元から葉が倒れ始めます。葉が7～8割倒伏した頃が収穫適期です。収穫したタマネギについては、生食用は早めに利用するのがおすすめです。長期保存する場合は、掘上げ後、2～3日間ほ場でよく乾燥させて、葉をまとめて縛り、風通しの良い日影の軒下などに吊るしておきます。良く乾いたものは、茎葉を切ってネットに入れて吊るしても良いです。

病 害 虫

べと病は、葉の中央部がくびれたり先端がしおれて枯れ始めたりします。春先と葉が伸び出した頃、ダコニール1000やべと病に登録のある薬剤を散布します。農薬を使用する際は、ラベルをよく読み、使用方法や使用回数を必ず確認して適正に使用してください。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。